

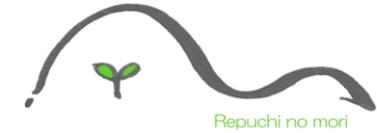


## リプチの森

人々と自然と歴史が共生する、サステイナブルな新しいまちづくり

伊豆屋5丁目  
Re7チの森  
この森に、48家族の  
森(守)人が生まれます  
森人たちは、木を植え、育て、  
そうして「間知」をつくります。  
やがて大きな自然に生長するの  
とても楽しみです。  
(株)高田建築事務所  
〒410-0000 静岡県伊豆市伊豆屋5丁目1-1  
TEL 0750-24-1270  
FAX 0750-24-1271





## 企画・開発の背景と発端

当敷地は、米百表で有名になった長岡市の南に位置する。

江戸と佐渡を結ぶ旧三国街道が通る歴史あるまちで名前を摂田屋という。

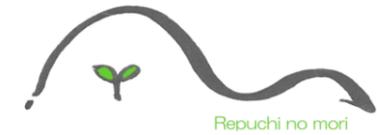
地名の由来は、接待屋からきているとも言われている。

山古志の山々からの湧き水を利用した醸造業で栄えた摂田屋は、醤油屋の板塀や酒蔵やサフラン酒の罎絵が並ぶ、歴史が呼吸している情緒豊かなまちである。

醸造業が盛んなことと関連があるのか、日本三大稻荷で知られる宮城県岩沼市の竹駒稻荷や金比羅様などが勧請され、今でも氏子によって守られ、祭祀なども続いている。また、各町内ごとにかなりの数の鎮守が存在し、こちらも地元の人によって守り伝えられている。

特に戊辰戦争開始時に長岡藩の本陣となった光福寺は訪れる人も多く、河井継之助はここで長岡城落城を知らされることになった。

この地で新しいまちづくりをするにあたり、人々と自然と歴史が共生するまちづくりを目指した。



## 人々と自然と歴史が共生し、サステイナブルな新しいまちづくり

現代は、インターネット仮想空間が肥大化している住環境にある。バーチャルの時代感覚が人間の感覚や関係を変えるとさえいわれる中で、みんなが集まって自分たちの手で緑の小さな森をつくるまちづくりが大切だと考える。人々と自然と歴史が共生し、サステイナブルな新しいまちづくりを目指した。

「再び（リ）小さな（プチ）森をつくろう！」を合言葉に

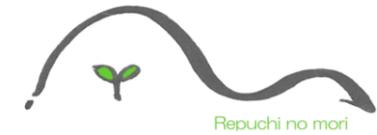
「リプチの森」と命名されたまちづくりは、

単に土地分譲をするのではなく、

思想を共有できる人々が集まる居場所をつくる新しいまちづくりプロジェクトである

# 新しいまちづくりのコンセプト

歴史あるこの地で計画された新しいまちづくりのコンセプトと地域性への配慮事項は、



## 1. 自然との共生

人々の住まう居場所は緑豊かな森づくりでもある。

自然と共生する 居心地の良いまちづくり = 1 / f の揺れをつくる。

住民参加型のまちを育てる活動（植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と雪のイルミネーション）

## 2. 歴史との共生

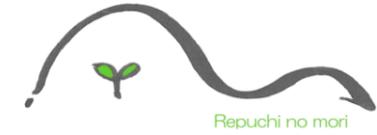
土地の持つDNAの遺伝子を見直し、新しいまちづくりにその記憶を埋め込みデザイン化する。

## 3. 人々の共生

自然との共生はもとより、地域交流スペースを併設した高齢者施設を作ることにより  
老若男女が共生するまちづくりを目指した。

私達のまちづくりは「間知（まち）づくり」と呼称した新しいまちづくりプロジェクトである。

\*間知（まち）とは、距離感を大切にし、居心地のよいコミュニティースペースの創造



## コミュニティー計画

# 古い町並みと新しく作られる町並みの共棲

### 道路計画

#### 町内コミュニティーの班分け

地区計画：都市計画における用途制限を押し厳しく制限する。

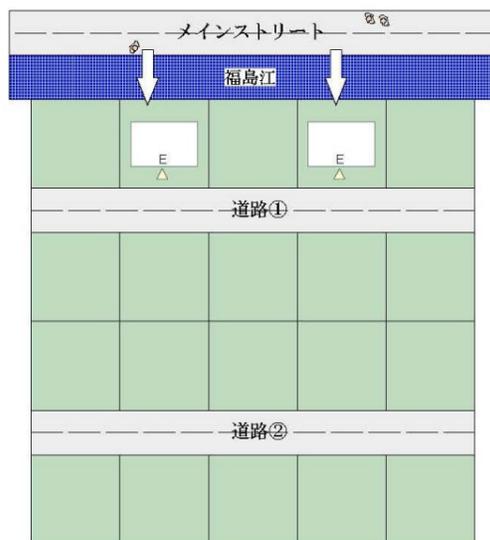
住宅専用分譲地ではなく、店舗・福祉施設 e t c . を混在させる。

コミュニティー：新しいブロックが隣接既存ブロックと融合思考していく仕掛けづくり。

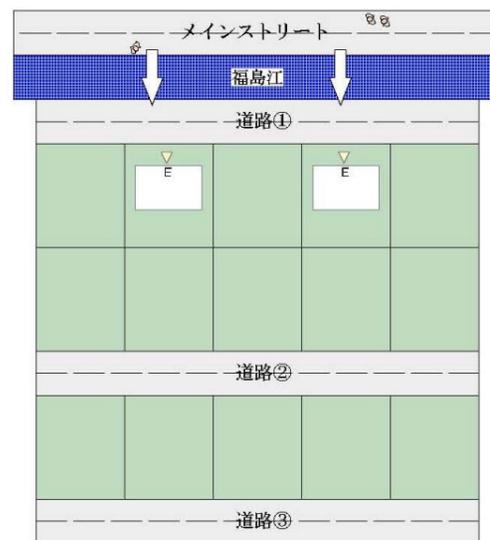
古い町の持つ記憶をデザインサーベイし、新しい町にデフォルメしながら埋め込んでゆく。

道路計画

道路効率は良いが  
メインストリートからの景観は悪い  
(各住戸の裏を見る)



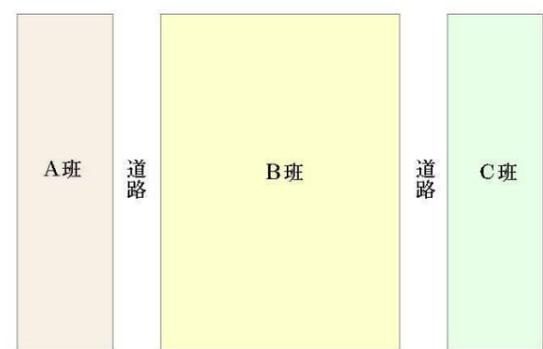
道路効率は悪いが  
メインストリートからの景観は良い  
(各住戸の正面を見る)



町内コミュニティの班分け

一般的なブロック毎のコミュニティの班分け

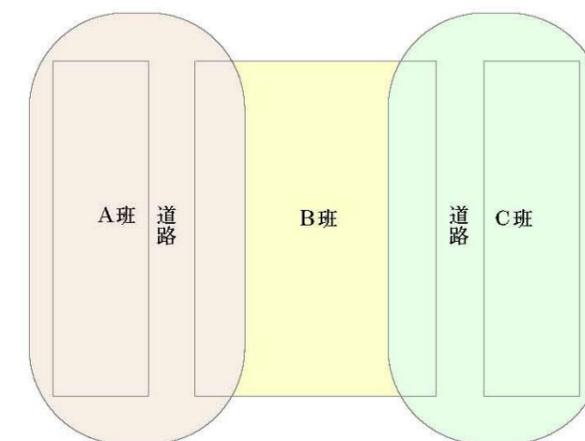
独立スタイル



既存住戸ブロック    新しい住戸ブロック    既存住戸ブロック

新しい融合させたコミュニティの班分け

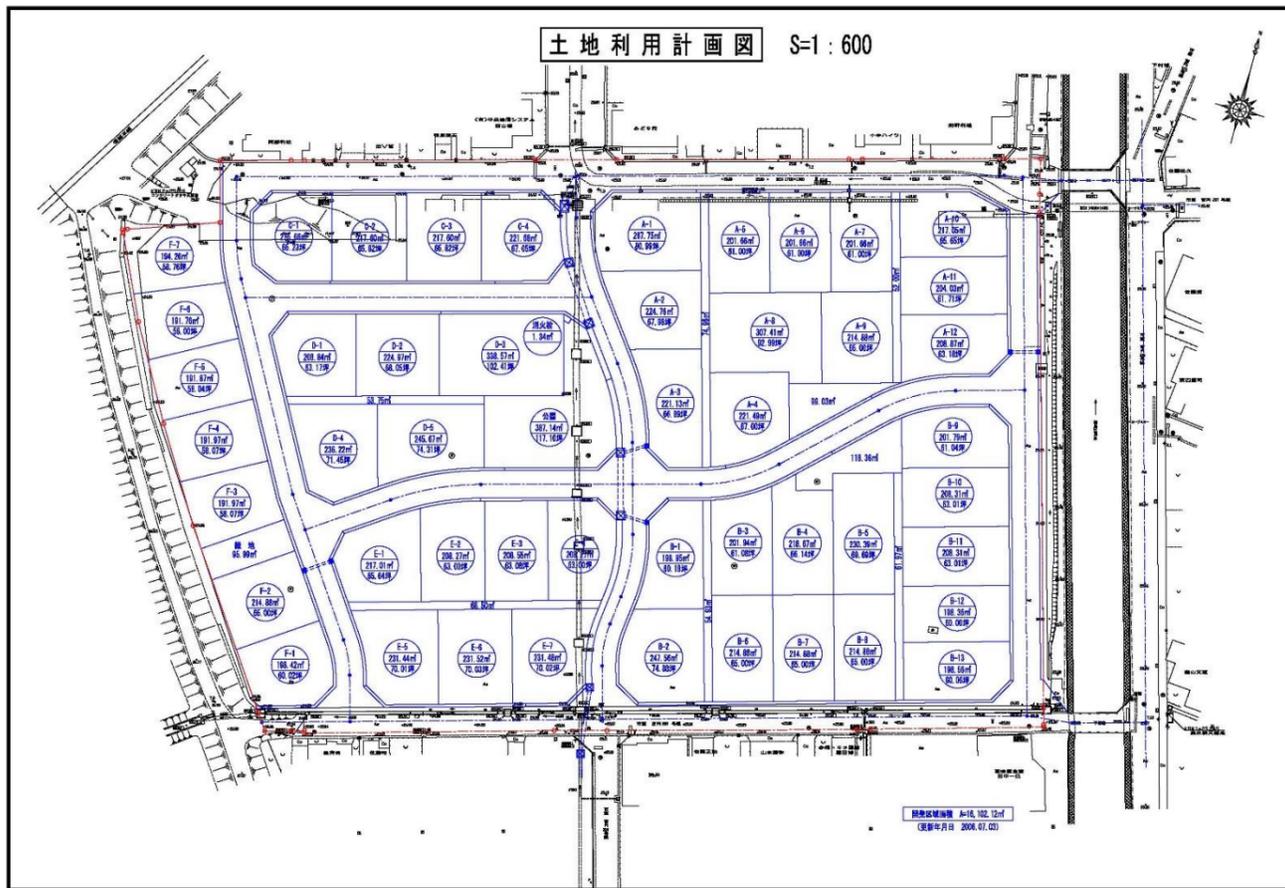
融合スタイル



造成前風景(N自動車学校)



造成全体計画図



計画図 (宅地・道路・公園・緑地・通路)

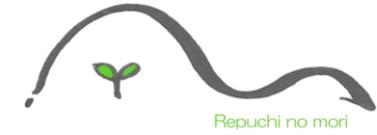


カスケード (水門柱) と街灯



造成完成





# 1. 自然との共生

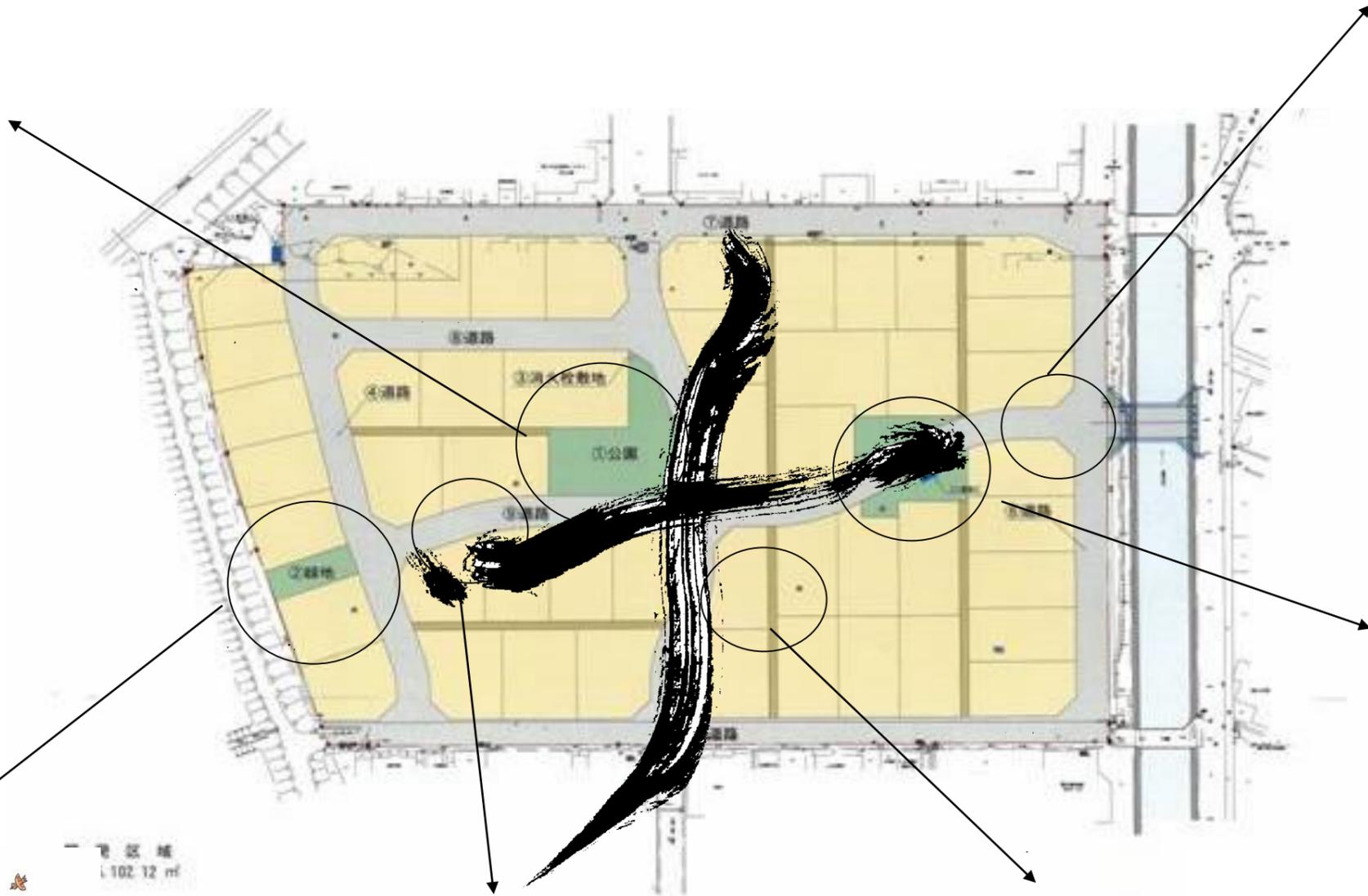
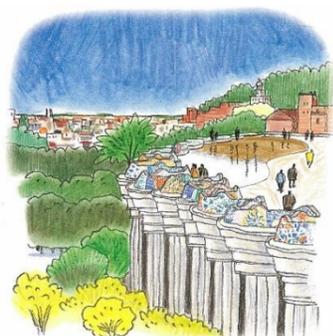
居心地の良いまちづくり = 1 / f の揺れをつくる。

住民参加型のまちを育てる活動（植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と雪のイルミネーション）

# 居心地の良い間知づくり

1 / f の揺れをつくる モノ・光・音・水 . . .

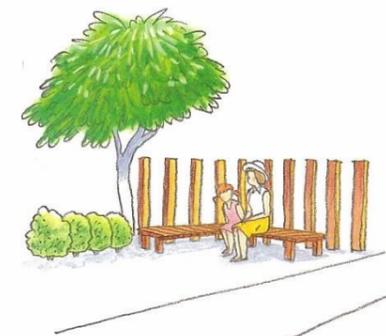
## 6、リプチの森の中心にある公園



## 1、ゆるやかにカーブを描く道



## 2、間知のたまりばコモンスペース



## 5、実のなる木 リプチの丘



一宅区域  
102.12 m

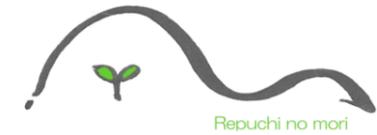
## 4、水と親しむ水門柱



## 3、幅1.5mの遊歩道



リプチの森は、  
「再び（リ）小さな（プチ）森をつくろう」が合言葉



## 住民参加型のまちを育てる活動

季節毎のイベント：（植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と雪のイルミネーション）

人々の住まう居場所は、緑豊かな森づくりでもある。

「再び（リ）小さな（プチ）森をつくろう」を合言葉に「リプチの森」と命名されたまちづくりは、  
思想を共有できる人々が集まる居場所をつくることをコンセプトにした。

つくられたまちに住むというよりも、安全で居心地の良いまちを一緒につくりあげていくプロセスを共有  
することで、統一感も調和も生まれてくる。

- 1、五感に語りかける 1 / f の揺れ・・・カーブする道路、木漏れ陽、水音
- 2、歩行者にやさしい・・・道路をカーブさせることで車のスピードを抑える
- 3、安心、安全・・・境界に塀で死角をつくらない、ガーデン灯で明るい街並み
- 4、行き詰らない道路・・・歩く視線は丘や、コモンや、公園にシースルーする。



# 春

植樹祭・お散歩



植樹祭をやっています。今回植えたのは、ハナミズキ・ヤマボウシなど8種70本。一つひとつが大きく育ちリプチの森の大切な宝になってくれることを祈っています。摂田屋保育園の園児が、お散歩にやってきます。みんなこの丘が大好き！！

# 夏

夏まつり・音楽会



暑い夏、町内夏祭りでも、水門柱は子供たちに大人気！大活躍！！ハモネブで人気の日下ファミリーによるアカペラコンサート開催。きれいな歌声がリプチの森に響き渡り、花火とともに夏の夜の素敵なひとときを過ごすことができました。



# 秋

## 野点のお茶会



秋晴れの中、リプチの森でお茶会が華やかに催されました。  
裏千家滝沢先生のご指導の下、手づくりの見事な茶室をリプチの森に造り上げました。

# 冬

## 光と雪のイルミネーション



光と雪の饗宴 手づくりのイルミネーションが川面に映る  
雪が降ると様々なヘアファッションで、リプチ通りを楽しませてくれる水門柱



# 5月

## リプチの住人による共有スペースのペンキ塗りと懇親会



共有スペースのメンテナンス。手数が多  
いと短時間で作業が終了



地域交流スペース前のコラムも一気  
に塗り込められた！



ごみステーションも塗ってしまおう！



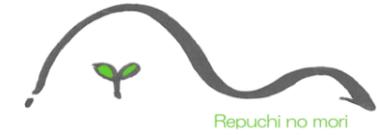
リフレッシュした、はさぎコラムと水門柱！



作業後は、地域交流スペースで、  
みんなで楽しい懇親会



みんなで、記念写真も忘れずに！



## 2. 歴史との共生

土地の持つ記憶をデザインサーベイし、新しいまちづくりにその記憶を埋め込みデザイン化する。

歴史を継承して文化を育む：醸造の町・アートの町

歴史の持つ記憶をサーベイする

1. 歴史ある町：醸造のまち摂田屋：三国街道、米百表、河井継之助のゆかりの地
2. 水源豊かな町（東山の豊かな伏流水）
3. 活躍した芸術家たち：饅絵作家左官の川上伊吉と日本画家の川上四郎画伯
4. デザインサーベイ：近隣の街並みに見られる風景をピックアップ

太田川と幾流もの分水路



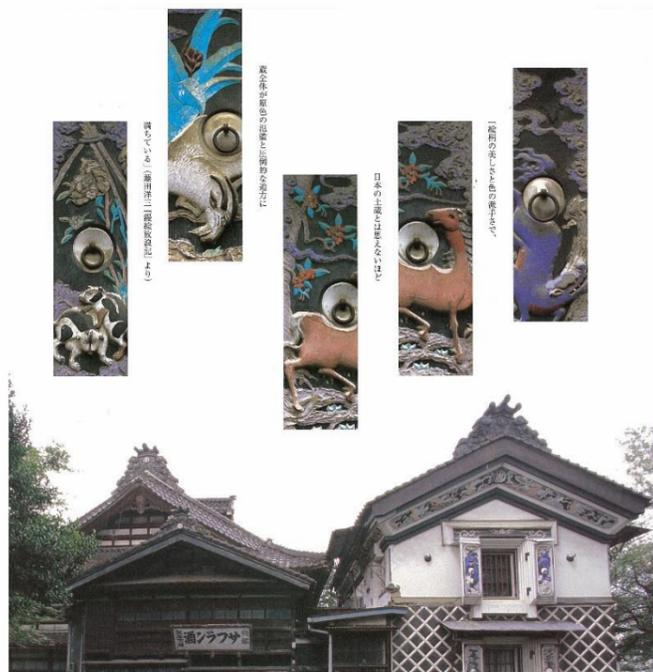
蓬平・山古志からの伏流水



川上四郎画伯の描く生地故郷



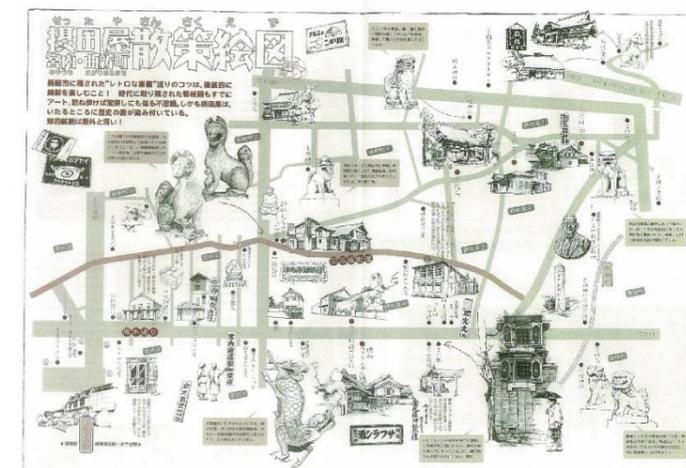
サフラン種：川上伊吉の鰻絵



摂田屋は、三国街道、米百俵、河井継之助ゆかりの地、黒い板塀



醸造業のまち  
豊かな水から生まれる酒・醤油・味噌



## 土地の持つ記憶（カーブを描く道、水門柱、はさぎなど）を 新しいまちにデザイン

1. 街道のヒューマンスケールを残すゆるやかにカーブを描く道
2. コモンスペースは、はさぎコラムのあるまちのたまりば
3. 幅1.5mの石畳の遊歩道
4. 山々からの湧水：水と親しむ水門柱
5. 緑豊かな地：実のなる木 リップチの丘
6. リップチの森の中心にある公園のフェンスを取り除き市営公園から自主公園へ
7. 活躍した芸術家たちに倣ってアートフルなまちに



摂田屋の風景

# 1、ゆるやかにカーブを描く道

メイン通りになるReプ子通りは、真っ直ぐの道に設計しないで、ゆるやかにカーブを描いた道にしました。それは設計者の好みといえませんが、実は、好み以上の理由があることを知ってほしいと思います。真っ直ぐに開けている筈の道なのに、道の左右がブロックの壁で、何故か窮屈に感じた経験はありませんか？はるか遠くに山があって、麦畑の大地が左右にうねっているような、そんな直線の道は、みんな好きだと思います。けれど、スケールを感じない直線の道は、遠近法の関係で、遠くを見れば見るほど狭まって感じます。設計的にいうと、都市計画のスケールは丁度規の上で描かれます。しかし、昔からのいい道は、人の歩くスケールで描かれていますので床しく設計されています。

摂田屋の旧村の道も、ゆるやかにカーブを描いた道が大半です。カーブを描いた道は、車は減速せざるを得ません。歩行者優先のヒューマンスケールになります。また、カーブを描いた道は、アイ・ストップされます。樹木や生垣、板壁や窓辺が、ゆるやかに目に入ります。



コモンスペース

コモンは、個人の敷地ではなく、共同して使える場所をいいます。  
Reプチの森に、そんなコモンスペースを設けました。いうなら〈間知〉の〈多間里場〉です。  
そこは、子どもたちが石蹴りケンケンして集まる目印となる場所であり、老人たちが、孫の遊び姿を見やりながら憩うベンチの場所でもあります。小さなスペースですが、ほっとできる空間であり、町全体の句読点のような役割を持っています。広場や遊歩道と並んで、大切にしたい共同スペースです。  
水門柱の水源は、コモンにある井戸から汲み上げられます。



コモンは、街のたまり場

幅1.5mの遊歩道

地区計画では、外壁後退1mと決められています。幅1.5mの遊歩道に、この1mをプラスすると、家と家の間は三.五mになります。遊歩道は、散歩道になるというだけでなく、(間知)をカタチづくる上で、大きな効用を持っています。

まず、日本の住宅地景観でしばしば問題とされる電柱ですが、地下ケーブル配線とまで行かなくとも、電柱を遊歩道に立てることで、電線が乱雑さを生んでいるマイナスを避けることができます。

三.五m程度の通りの向うに見える立木は、敷地内のもので違う距離感を持っています。隣の家の壁もある距離があると落ち着きが得られます。

遊歩道に敷くのは、石であったり、タイルであったり、枕木であったりします。ランダムな仕様は、楽しい空間を醸し出してくれます。



枕木の遊歩道



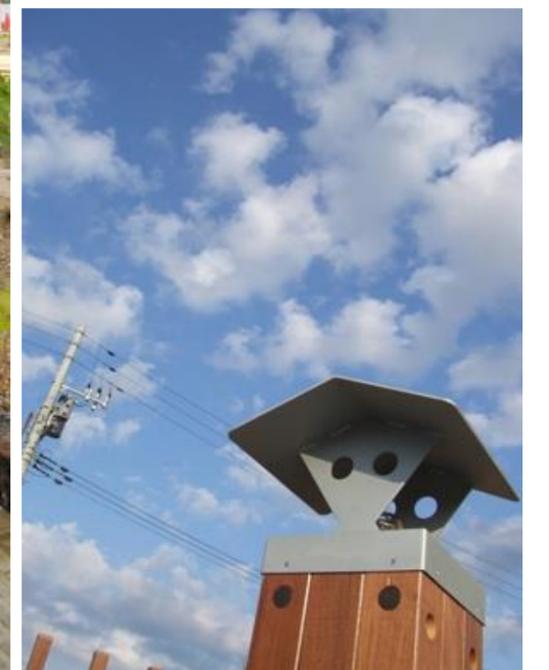
レンガの遊歩道



石の遊歩道

水と親しむ

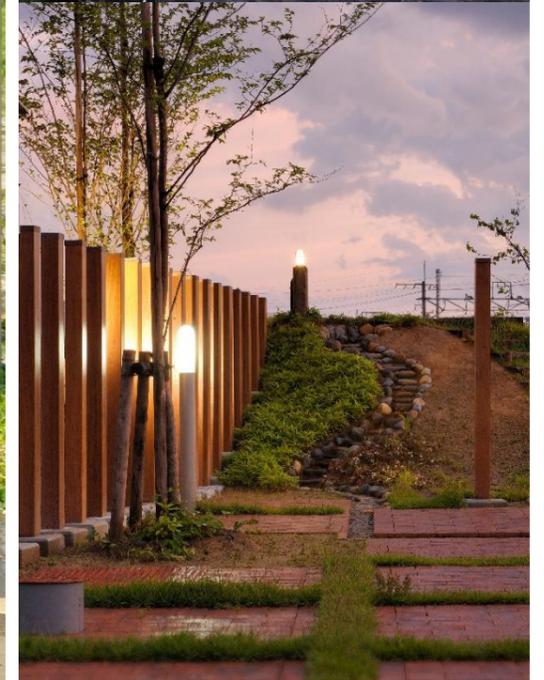
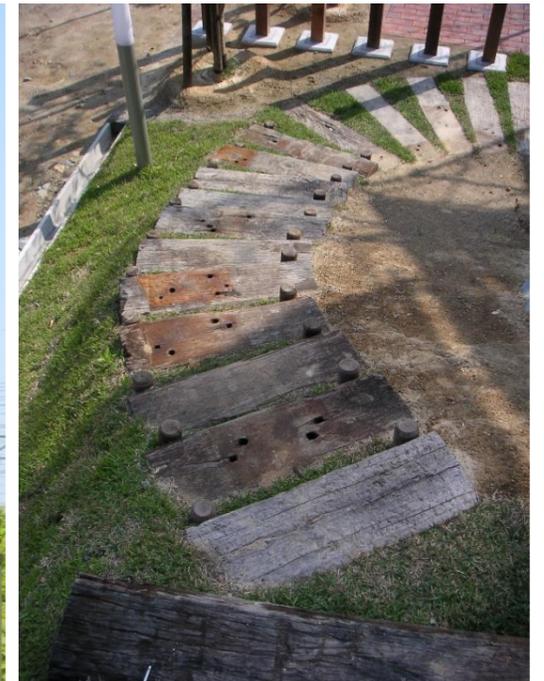
摂田屋周辺を散歩して気づくのは、用水と水門が結構多いことです。太田川の下を直行して福島江が流れています。その付け根に、印象的な赤い水門が付けられています。福島江から流れる用水も水門で接続されていて、さらにその用水から、それぞれの田んぼに水が導かれています。そしてそこにも、小さな水門があります。ゆたかな水田風景に、整然とした秩序を与えているのは水門なのです。Reプ子通りに、水門柱（カスケード）を設けました。時を決めて水を汲み上げ、流します。その音を持つ心地よさを、どうぞ味わってください。



時を告げる水門柱 8時10時12時15時18時の1日5回水が流れ時を知らせる

小鳥が寄る十二本の木

実のなる木には小鳥たちがやってきます。  
小鳥たちは、その実が一番おいしい日を、人間よりも少しだけ早く察知して、今日こそ食べごろだと思っていると、その朝に食べられたいすることが多々あります。  
そのときは、やられたなと怒り狂いますが、少し冷静になると、そのあまりの勤のよさに舌を巻き、ついには褒めてあげたくります。そういうことなら、こちらは冷徹な観察者になって、どの鳥がどの木の実を好むのか、食い散らかすのか、キレイに食べるのか、オスカメスカ、どこに巣を作っているのかなど、いろいろ調べてみては如何でしょうか？  
小鳥よりも頃合いよく食すこともあきらめな  
いで…。  
というわけで、小鳥のために十二本の実をつける木を植えることにしました。実をつける木は、小鳥たちにとってもうれしい木というだけでなく、人にとっても、暖かい橙色や青い実など、目にして楽しい木ばかりです。



丘の上から眺める夕陽

## 6、リプチの森の中心にある公園

### せせらぎの音

カステッドから落ちた水、小さな音色を奏でます。水は、道路に沿った  
血側溝を流れて、せせらぎをつくり出します。  
生活の音が楽しくなると「開知」が弾みます。風鈴も、雨戸を開ける音  
など、耳を澄ますとそれなりにリズムがあつて、心地よいものです。  
この血側溝には、いろい  
ろな文様や絵柄のタイル  
を、それぞれのセンスを  
生かして貼ることができ  
ます。  
スペインの建築家アント  
ニオ・ガウディは、バル  
セロナの街が一望できる  
グエル公園に、割れたタ  
イルを用いて、独特のモ  
ザイク模様のベンチや天  
井をつくりましたが、あ  
んなふうに楽しいデザイ  
ンになるといいですね。

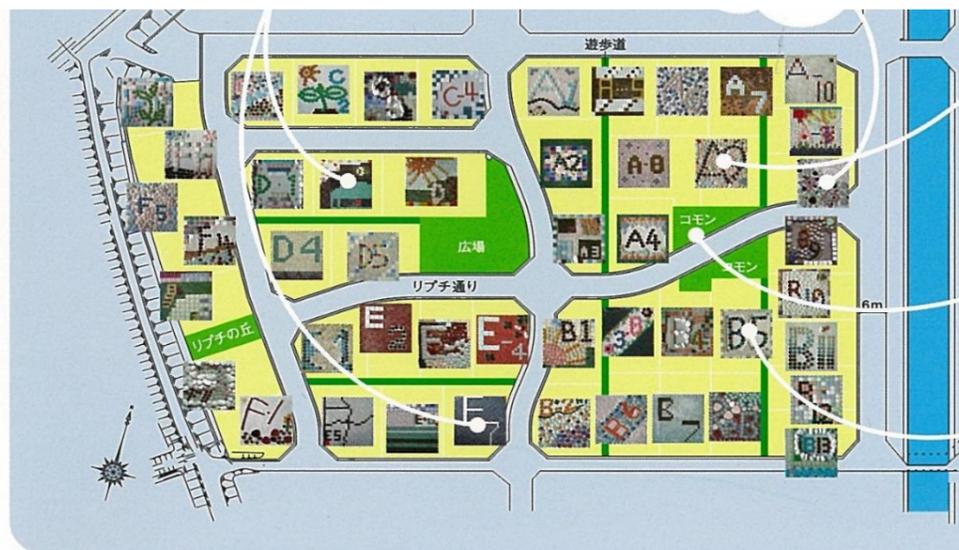
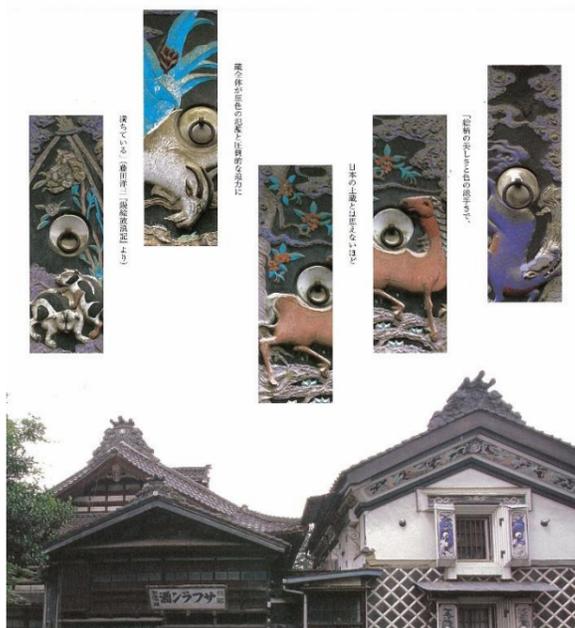
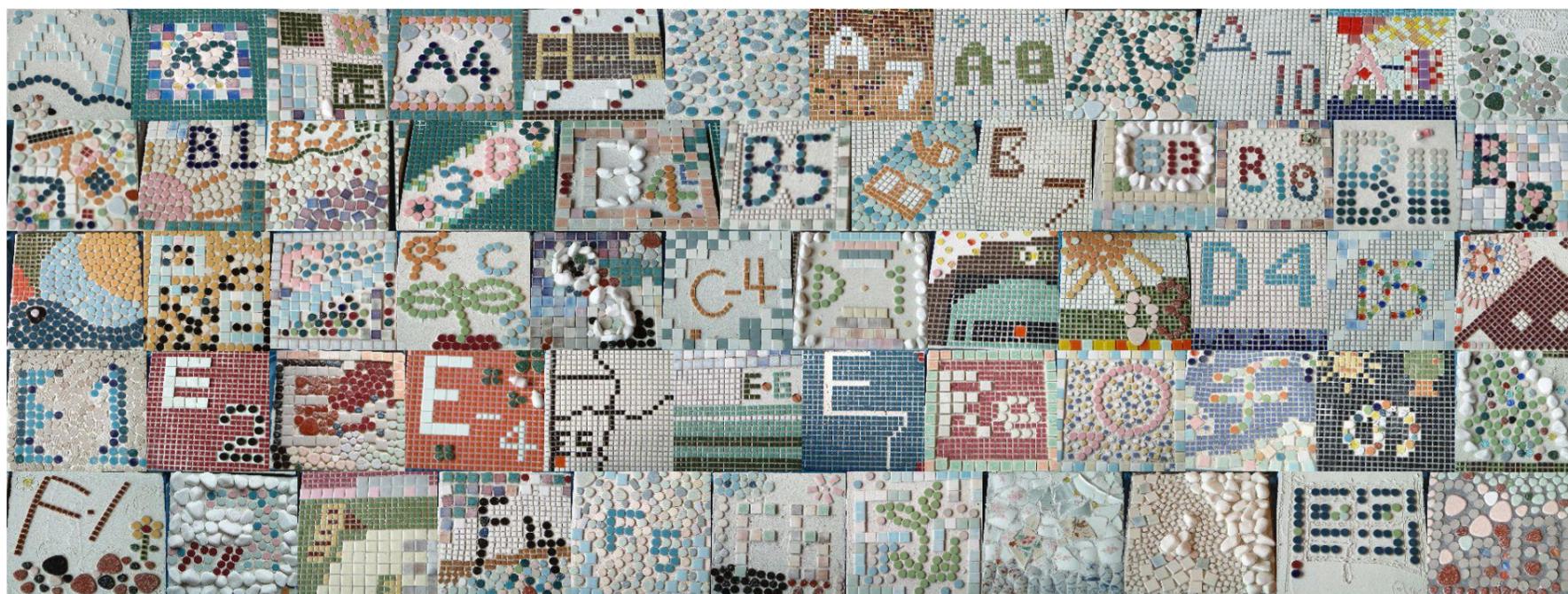


活躍した芸術家たちに倣って

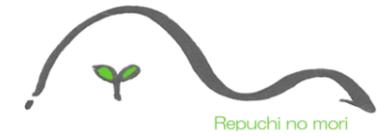


スペインの建築家アントニオ・ガウディーは、バルセロナの街が一望できるグエル公園に、割れたタイルを用いて、独特のモザイク模様ベンチや天井を造った。

リプチの森も区画番号を描いた案内版をモザイクタイルで、ひとつひとつ手づくりして街を彩った。サフラン酒の饅絵の河上伊吉に倣って・・・

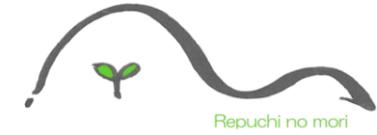


サフラン酒の饅絵 河上伊吉 作



## 3. 人々の共生

老若男女が混在するまちづくりを目指し、  
住民に開放する地域交流スペースを持つ地域密着型介護施設を併設する。



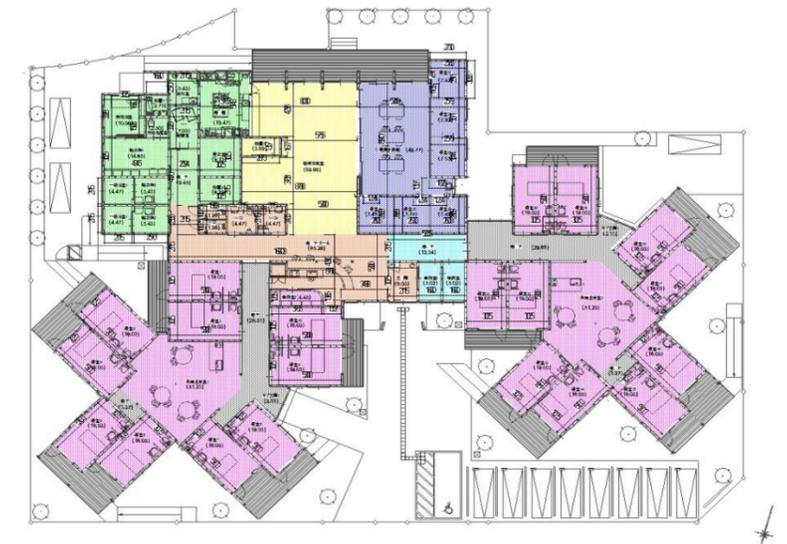
## 地域交流スペースを併設した高齢者施設は、 世代をこえた交流の場

分譲地は、住宅専用ではなく、店舗・福祉施設を混在させ、暮らしが息づくまちに。  
特に、小規模多機能型施設を併設した地域密着型介護施設は住まう人に安心感を与える

小規模多機能型施設と地域交流スペースをOPENにすることで、様々な交流が生まれる

- ・ 地域交流スペースで、講演会・勉強会の開催
- ・ バーカウンターで楽しく集う、デッキカフェテラスでくつろぐ。
- ・ お茶会の開催・ちまきづくりで町内・地域交流
- ・ キッズスペースには、おもちゃもあり、学童保育の場にもなっている
- ・ 園児たちによる楽しいクリスマス発表会

## サポートセンター摂田屋 「 プチ・リップチ 」



### 施設概要：

長岡市摂田屋にあるリップチの森に、サテライト特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護施設・地域交流室を兼ね備えた『サポートセンター摂田屋』（通称：プチリップチ）が2010年に完成した。自宅にできるだけ近い場所への住み替えや生活の維持ができることにより、家族や地域の方との“馴染みの関係”をそのままに暮らして頂きたい、という考えをコンセプトに誕生した先進的な介護施設（複合型サービスセンター）である。

全体計画は、街並みに合うように、小さな家々が集まった形。施設には地域の方と語らうことのできるカフェテラス、子供達とふれあうキッズスペースもあり、様々な世代交流の場所として活用することができる。隣接してグループホーム（認知症対応型共同生活介護）とユニバーサルハイツ（在宅支援型住宅）が2011年に完成した。

地域交流室は、講演会を開催したり、地域の方と語らうことのできるバーカウンター付ラウンジやデッキカフェテラスがあり、お茶も飲め地元の人がゆっくり過ごすことも可能。



講演会・勉強会の開催



バーカウンターで楽しく集う



デッキカフェテラス

小規模多機能施設と地域交流室をオープンすることで、町内会行事や、お茶会など多目的な集まりに利用され、地域の方々との交流の場となる



お茶会の開催



ちまきづくりで交流

地域交流室には、子供達とふれあうキッズスペースもあり、様々な世代交流の場所として活用することができる。摂田屋保育園の園児たちによる楽しいクリスマス発表会も開催された



キッズスペースには、おもちゃもある



園児たちによる楽しいクリスマス発表会

- 1階 グループホームこぶし摂田屋
- 2階 ユニバーサルハイツ摂田屋

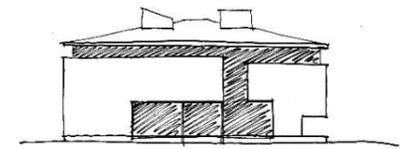


1階 グループホームこぶし摂田屋  
認知症対応型共同生活介護

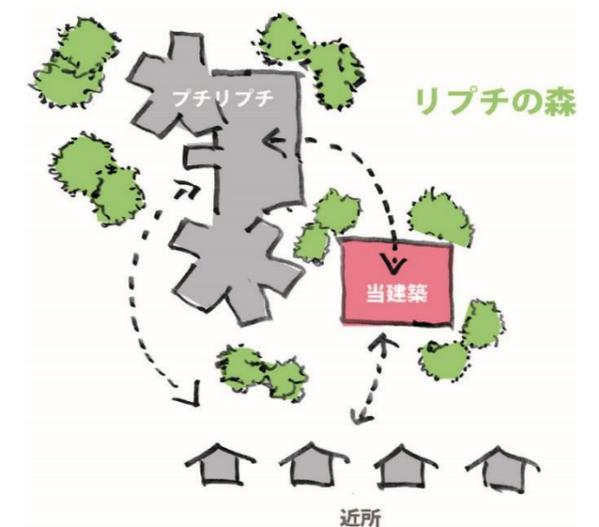


2階 ユニバーサルハイツ摂田屋  
在宅支援型住宅

立面を小さく分割し、屋根の軒先ライン下を四周セットバックすることで屋根に浮遊感を持たせ、街並みに馴染む立面とした。



入居する方は、お隣のプチリプチの多機能ゾーンに遊びに行ったり、お天気がよければ、リプチの森を散歩したりもできる。



Reプチの森 摂田屋5丁目 開発計画

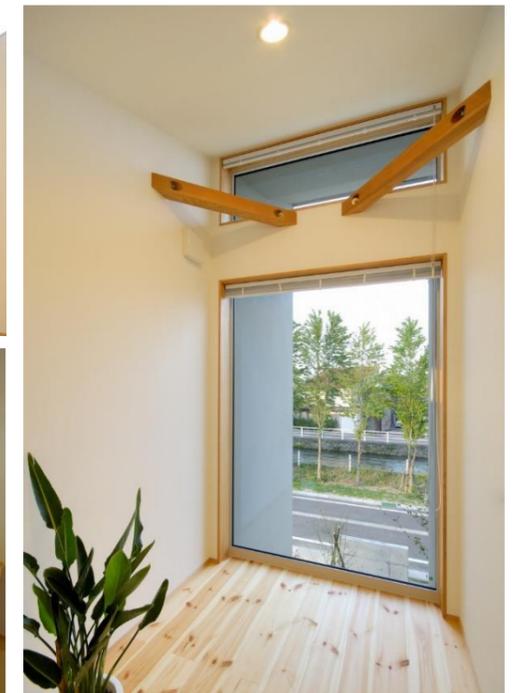


分譲地は、住宅専用ではなく、店舗・福祉施設を混在させ、暮らしが息づくまちに。  
特に、サポートセンター(小規模多機能型施設を併設した地域密着型介護施設)は住まう人に安心感を与える

リプチの森に建てられた第1棟目。  
リプチの森の入り口的ゲートの役割を果たすファサードを持ち  
「アーク・ド・リプチ」と名づけられた。  
第1棟目の誕生から、リプチの森づくりは始まった。

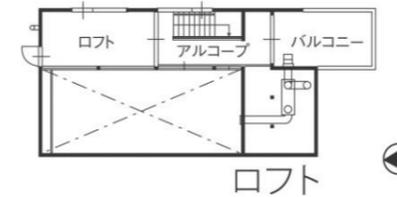
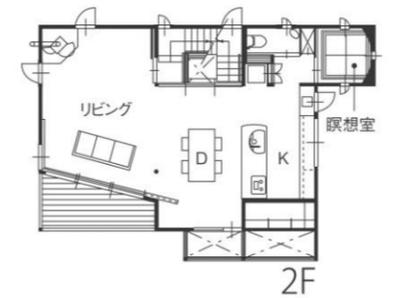


外観正面は、ちょうど真東に向かって大きなゲートデザインを施し、その中に住まいが入り込んでいるように内と外を相互貫入させ、リプチの森の空気を存分に家の中に取り込んだ。  
南側外観は、バタフライルーフ。これからリプチの森が羽ばたくよう想いをこめたデザインが採用された。



# 展示場 リプチの森のたまご

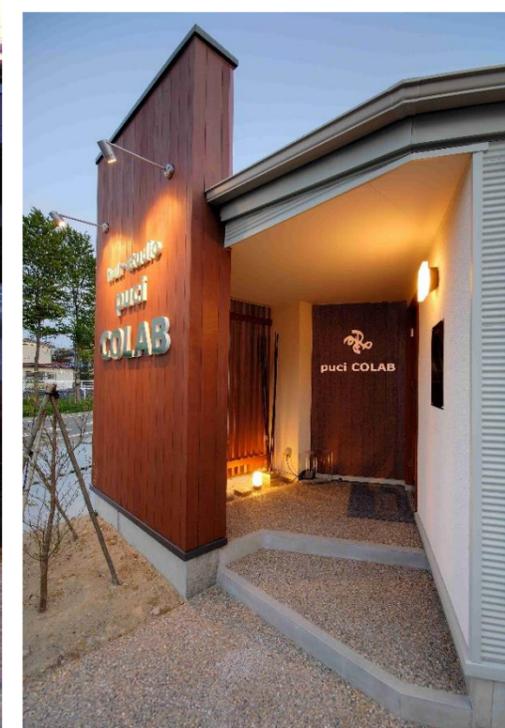
2009年に長期優良住宅先導的モデル事業  
「リプチの森のたまご」展示場が誕生。



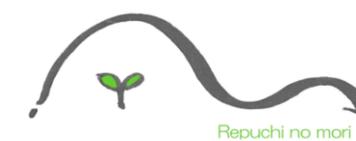
- 敷地面積 / 191.97㎡(58.07坪)
- 1階床面積 / 66.50㎡(20.08坪)
- 2階床面積 / 63.50㎡(19.17坪)
- 延床面積 / 130.00㎡(39.25坪)

200年住宅モデル展示場。太陽光発電パネルと集熱パネルを屋根に搭載し、エネルギーの自給自足を目指した。高耐震性、高耐久性、維持管理の容易性、バリアフリー性、スケルトン構造など住宅の長寿命化のための様々な配慮があり、構造躯体には国産材、柱と梁には県産材を使用した地産地消の地球にやさしいこれからの住まいづくりの提案型住宅です。

たまご形窓をもつ瞑想室



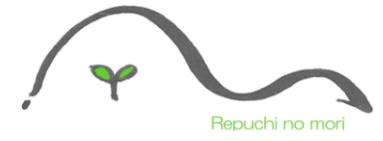
まちの名前にぴったりな小さな美容室プチコラボは、森の入り口の顔として、深い庇をもつ同じデザインモチーフとする。外観を切り取る3枚の屏風壁は、カットスペースと。格子の向こうの木製ドアを開けると、少し低めの位置から斜めにのびる高い天井が、室内空間を包みこみ、ムクの木構造を表した温かみのある空間。



## リプチの風

太古から流れ来る川の水によって  
その風はやってくる！  
全ての息ある生き物達の身体の中を  
突き抜ける生命の風！  
今の小さな出来事の“伝え”をのせて  
流れいくリプチの風  
そして何よりも大切なもの  
大切なことを常に謳う風！  
リプチの森には  
今日も生命の風が吹いている

continue



## 参考資料



「リプチ」の隠されたコード

ラピユタの城は、ジョナサン・スウィストの小説「ガリヴァー旅行記」に登場する空に浮かぶ島の名前です。リプチは文字の並べ替えにより付けられました

ラの次はリ

ピの次はプ

タの次はチ

が、隠されたコードです。



2013年

第8回地域住宅計画賞コンペ

「リップチの森 間知づくりプロジェクト」奨励賞受賞

2012年

第20回新潟県建築士事務所協会設計コンペ

「サポートセンター 撰田屋 プチリップチ」優秀賞受賞

2010年

第18回新潟県建築士事務所協会設計コンペ

「リップチの森」間知づくりプロジェクト優秀賞受賞

2014年

北陸建築文化賞

「リップチの森 間知づくりプロジェクト」業績部門

2016年

第5回 長岡市都市景観賞（まちなみ部門）

「リップチの森 間知づくりプロジェクト」

第8回 地域住宅計画賞

【応募者名】 高田建設事務所 高田建設事務所 高田建設事務所 〒940-1105 新潟県長岡市東田路5-4-22  
連絡先(電話番号) 本社 TEL:0258-36-12309 FAX:0258-36-8185

## リップチの森

間知(まち)づくりプロジェクト

【作品部門】 新潟県長岡市撰田屋

**■ 地域性への配慮事項**  
 撰田屋の地、撰田屋の間に歴史あるまち撰田屋がある。歴史あるこの地で新しいまちづくりをするにあたり  
 ①人々の住まう環境は歴史あるまちづくりである。「再び(リ)小さな(プチ)森をつくらう」を合言葉に「リップチの森」と名づけられた。また「再び(リ)小さな(プチ)森をつくらう」を合言葉に「リップチの森」と名づけられた。  
 ②土地の持つDNAの歴史を尊重し、新しいまちづくりにもその記憶を埋め込みデザイン化する。  
 ③自然との共生はもとより、地域交流スペースを創出した高層階級を創出することにより、住民の交流を促すまちづくりを目指した。  
 ④歴史のまちづくりは「間知(まち)づくり」と呼ばれ、人々と自然と歴史が共生する新しいまちづくりプロジェクトである。

**■ 作品の概要**  
 人々と自然と歴史が共生し、サステイナブルな新しいまちづくり  
 ①自然との共生: 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)  
 ②歴史との共生: 土地の持つ記憶をデザインサーベイし、新しいまちづくりにその記憶を埋め込みデザイン化する。  
 ③人々の共生: 老若男女が滞在するまちづくりを目指し、住民に開放する地域交流スペースを持つ地域密着型複合施設を併設する。

**1.自然との共生**  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)  
 人々と自然と歴史が共生し、サステイナブルな新しいまちづくり  
 断崖の良いまちづくり  
 1/fの掘れをつくる モノ・モノ・モノ  
 断崖・北門街

**2.歴史との共生**  
 土地の持つ記憶をデザインサーベイし、新しいまちづくりにその記憶を埋め込みデザイン化する  
 カークを置く。水門街。はさぎなど土地の持つ記憶をデザイン  
 人々の暮らしを支えるまちづくり=1/fの掘れをつくる  
 1. 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる  
 2. コミュニティ新しいブロックが断崖とつながり歴史を思い出して仕掛けづくり。  
 3. 古い町並みと新しく作られる町並みとの共生を促すまちづくりという課題には、  
 ・地元計画: 都市計画における歴史を尊重し、活用する。  
 ・各等分計画: 断崖とつながり歴史を思い出して仕掛けづくり。  
 ・コミュニティ新しいブロックが断崖とつながり歴史を思い出して仕掛けづくり。  
 ・古い町並みと新しく作られる町並みとの共生を促すまちづくりという課題には、

**3.人々の共生**  
 老若男女が滞在するまちづくりを目指し、住民に開放する地域交流スペースを持つ地域密着型複合施設を併設する  
 地域交流スペースを併設した高層階級。子供たちとの交流の場  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)



撰田屋の地、撰田屋の間に歴史あるまち撰田屋がある。歴史あるこの地で新しいまちづくりをするにあたり「再び(リ)小さな(プチ)森をつくらう」を合言葉に私たちのまちづくりは、「リップチの森」と名づけられた。

**リップチの森は「再び(リ)小さな(プチ)森をつくらう」を合言葉に**  
 人々の暮らしを支えるまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)

**断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる**  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)  
 断崖の良いまちづくり=1/fの掘れをつくる。在りし頃のまちを育てる活動(植樹祭・夏祭り・野点のお茶会・光と響のイルミネーション)



株式会社 高田建設事務所